

ブラジルでも貧富の差

室蘭・海星学院高

室蘭・海星学院高校(香川謙二校長、210人)の1、2年生154人を対象にした反貧困キャンペーン宗教特別授業がこのほど、同校で開かれた。生徒らは世界の貧困や格差などについて理解を深めた。

同授業は、カトリック司教協議会の社会司教委員会が構成するカリタスジャパンが、世界の飢餓をなくすために取り組んでいる反貧困キャンペーン「五つのパンと二匹の魚」の一環。同

校の市川栄作教諭が「ムヒカ大統領のスピーチ「持続可能な社会を考える」をテーマに講話した。

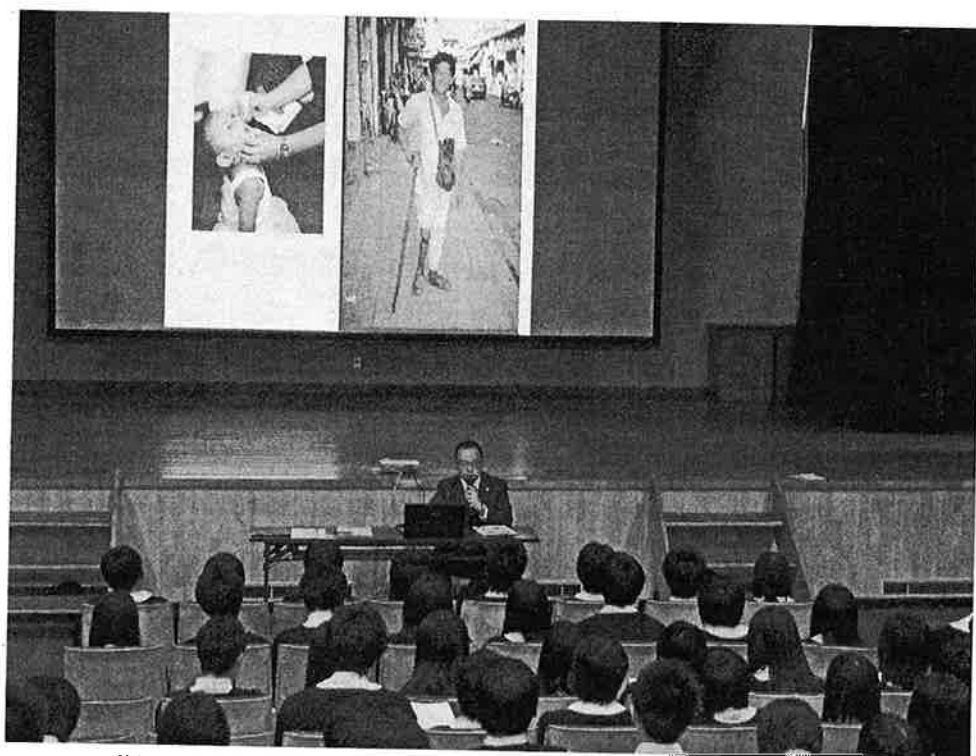
市川教諭は「裕福なブラジルでも貧富の差がある」「急激な人口増加に水や石油などの資源が追いついていない」「飢餓で苦しむ人は8億6800万人もいて、1日に4〜5万人の人々が命を落としている」と世界中の格差や飢餓の現状を解説。

また、2012年(平成24年)のブラジル・リオデジャネイロで開催された国連持続可能な開発会議でウルクアイのホセ・ムヒカ大統領のスピーチを紹介。市川教諭は「持続可能な社会について考えながら、途上国や東北支援に励んでほしい」と呼び掛けた。

薩来里穂さん(1年)は「現在ワールドカップが開催されているブラジルでも格差があることは知らなかった。日本はとても恵まれている。自分には何ができるかを考えてボランティア活動などに励みたいです」と話していた。

(石川綾子)

世界の現状学ぶ



貧困や格差、飢餓について学んだ反貧困キャンペーン宗教特別授業